

「仕事と私事」の両立



平口侑香里

住友化学(株)樹脂関連事業開発部
[103-6020] 東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋
タワー
博士(工学).
専門は細胞足場材料.
hiraguchiy@sc.sumitomo-chem.co.jp

今回本コラムへの原稿執筆の依頼をいただき、自分の会社生活を振り返る中で、改めて仕事と私事の両立の重要性について気づく機会をいただいた。仕事と私事の両立に関して、私を感じたこと、考えたことを皆様に共有することで、なんらかのメッセージとなれば幸いである。

会社でポリエチレンやポリプロピレンなどのポリオレフィンに関する開発やマーケティング業務に携わって早6年目となる。大学では東大・高井まどか教授に師事し、細胞足場材料などのバイオマテリアルの研究に取り組んだが、会社ではポリオレフィンの研究開発とまったく異なる分野での業務となり、右も左もわからない状況の中、当時の上司・先輩たちが丁寧にご指導くださったことを鮮明に覚えている。バイオマテリアルの分野では解明されていないことだらけで毎日が新しいことの発見だったが、ポリオレフィン研究には非常に長い歴史があり、自分にとって新しいことでも、大半のことはすでに誰かが知っている状況であったことに始めは戸惑いを感じたものだった。バイオマテリアルの分野でも大学研究活動の中で身に着けた知見が数十年後には常識になっているかもしれない、と非常に感慨深く感じた。

会社での生活はあっという間に過ぎていき、2年前に30歳の節目を迎えた。節目のタイミングで仕事面・プライベート面の両方で大きなイベントがあった。部署異動と結婚である。まず、部署異動により業務が研究開発からマーケティングに変わり、社内の別部署との議論や顧客との対話の機会が大幅に増え、刺激に満ちた日々を送っている。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、オンラインではなく対面での打ち合わせが増え、全国各地に出張する機会も増えた。研究開発時代は社外の方との接触がほとんどなかったためオンライン会議だけで十分と思っていたが、社外の方とのやりとりが増えた今では、多人数や初めての相手とのオンライン会議では突っ込んだ議論がしにくく、対面で対話をする機会の重要性を再認識して

いる。

一方、結婚にともなう準備や諸手続きは一大イベントではあったが、私のライフスタイルは独身時代とほとんど変わっていない。ただ同じ空間で過ごす人が一人増えた程度のものである。

しかし、結婚により、「仕事と私事」の両立に関しては大きな意識の変化が生じた。独身時代に考えていた「仕事と私事」の両立と、結婚した後に考える「仕事と私事」の両立は異なるのではないかと感じるようになった。独身時代に考えていた「仕事と私事」の両立は、たとえば仕事と家事の両立や、休日に上手にリフレッシュする方法など、時間の使い方に関することが主であったが、結婚後では「仕事と私事」の両立として、たとえばキャリア形成のために転職を受け入れるのか、子供や住居購入の計画など、長期的なライフプランを考えるようになった。結婚により新しい家庭ができると、自分だけの体ではなくなり、自由なライフプランを描くことが難しくなってしまった。理屈では最善と考えられる計画であっても、自分が本当にやりたいことができない、一方、自分がやりたいことを実現するには家族と過ごす時間が減ってしまう、というジレンマも感じる。最近は転職の選択、子供をもたない選択、結婚しない選択など、多様な選択肢がある。選択肢が多いことは素晴らしいことであるが、逆に判断に迷ったり、正解のない選択肢に直面したりすることもある。もちろんパートナーと話し合って決めることが重要であるが、パートナー以外にも相談できる友人や先輩がいると非常に心強い。ライフプランといった重い相談にのり、応援してくれるような関係性を学生時代に築いていくことをおすすめしたい。

過去に決めたライフプランだとしても、生きていると考えが180度変わることもある。過去の考えに固執せず、柔軟に今できることの最善を選べばいいのではないだろうか。たくさん悩んでたくさん相談して、自分のライフプランについて納得した道を進んで欲しい。